

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 3クオ ーター / Third Quarter	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 3, 月 / Mon 4
開講期間 / Class period	2018/09/28 ~ 2018/11/26		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587508301	科目番号 / Subject code	05875083
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	多様性社会を考える (多文化化する社会) / Multiculturalism and Society		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	劉 卿美 / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	劉 卿美 / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	劉 卿美 / Yuu Kiyonmi		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟38 / RoomG-38		
対象学生 (クラス等) / Target students			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	you-kiss nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Instructor office	教養B棟106号室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2081		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日5限、火曜日3?5限		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	モノ、カネ、ヒト、情報の国境を越えた移動が加速し、国境のもつ意味が小さくなっています。ポ ーダレス化した時代において、日本に住む外国人はもちろん、外国に住む日本人も、ますます増え ていくことが予想されます。異なる文化的背景を持つ人々が、互いの個性を尊重し、自己の能力を 十分に生かしながら、いきいきと暮らす社会の実現はどうしたら可能でしょうか。本モジュールで は、国籍や民族、またそれぞれがもつ文化や言語の多様性に注目しながら、急速に進みつつある 多様性社会について考えます。		
授業到達目標/Course goals	1.積極性と意欲を持って、学習に取り組むことができる (?@A)。2.偏った情報に頼ることなく、 いろいろな視点から物事を見ることができ、多様性のある判断ができる (?B)。3. 今まで経験しな かった新しいことに積極的な興味を持ち、新しい経験、考え方、感情を刺激として受けとめること ができる (?K)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけ て欲しい力 (1つ以上3つまで) /Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動  / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動  / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動  / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動  / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法  / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される  / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	授業への取り組み方 (20点) + 授業内活動 (ペア・グループワーク、プレゼンなど) (20点) + 課 題 (レポート、ポスターなど) (30点) + 定期試験 (30点) * 出席が授業時数の3分の2に達しない 場合は、失格とする。 * 合計100点のうち60点以上を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法 )/Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review	連絡事項はLACSに掲載します。事前、事後にLACSを確認しましょう。		
キーワード/Key word	国民国家、マイノリティ、単一民族		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	参考書: 関根政美 『多文化主義社会の到来』朝日新書、アンドレア・センブリーニ 『多文化主義と は何か』白水社		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites, etc.	連絡事項はLACSに掲載します。毎回、LACSを確認してください。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員 (上記連絡先参照) または「アシスト広場」 (障がい学生支援室) にご相談下さい。 アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) /Remarks(URL)			

学生へのメッセージ/Message for students	今の社会、ひいては将来の社会の姿を作っているのは、私たち一人ひとりです。ただし普段、このことについて考えることはあまりないのではないのでしょうか。本モジュールでは、私たちが生きる社会の多様性について学びながら、一人ひとりの市民として、行動と協働を通して、地域社会および将来世代に貢献できる手立てについて考えてみましょう。
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第 1、2回 (10月 1 日)	多文化社会のキーワードを調べよう。アクティビティ (世界つながり探検)
第3、4回 (10月15日)	多文化社会のキーワードを調べよう。アクティビティ
第5、6回 (10月22日)	多文化社会例?@韓国について知ろう アクティビティ ビデオレポート
第7、8回 (10月29日)	多文化社会例?@韓国について知ろう アクティビティ
第9、10回 (11月5日)	多文化社会例?A日本について知ろう アクティビティ
第11、12回 (11月12日)	共存共栄のためのポイントを調べよう。ポスターセッション
第13、14回 (11月19日)	共存共栄のためのポイントを調べよう。
第15回	定期試験

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 1クォーター / First Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講期間 / Class period	2018/04/05 ~ 2018/05/29		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0 / 2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587508501	科目番号 / Subject code	05875085
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	多様性社会を考える (多言語社会) / Multilingual Society		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	奥田 阿子 / Ako Okuda, 劉 卿美 / Yuu Kiyonmi		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	奥田 阿子 / Ako Okuda		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	奥田 阿子 / Ako Okuda		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育A棟33 / RoomA-33		
対象学生 (クラス等) / Target students			
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	a-okuda nagasaki-u.ac.jp (奥田) (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室 / Instructor office	言語教育研究センター B棟1階		
担当教員TEL / Tel	095-816-2380		
担当教員オフィスアワー / Office hours	メールにて問い合わせ後、訪問してください。		
授業の概要及び位置づけ / Course overview and relationship to other subjects	社会の変化は、これまで私たちが経験したことのない速さで、かつ大規模に進んでいます。そのなかで、加速する社会の変化にいかに対応し、また将来目指すべき社会の姿は何かについて考えます。とりわけ、この授業では日本国内における多言語の実態を把握し、多言語社会が抱える課題について考え、理解することを目的としています。特に、多言語社会における外国語教育の意義と課題について主体的に学ぶ授業です。		
授業到達目標 / Course goals	日本における多言語社会の実態について学び、自分なりの意見をもって他者と討議ができるようになる。 日本における多言語教育について調べ、考察し、レポートにまとめることができる。 積極的に他者と意見交換を行い、できるだけ沢山の情報をもとに自分の意見をまとめ、プレゼンテーションができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) / Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動   / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動   / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動   / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動   / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法   / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される   / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等 / Grading	事前調査と考察レポート 2回 プレゼンテーション評価 ディベートの参加度		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) / Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容 / Preparation & Review	【事前】与えた課題に対し、調べ、考察を行う。 【事後】授業で得た知識、他者との情報交換から得た情報をもとに、批判的思考を用いながら自分の意見をまとめる。		
キーワード / Key word	多言語、多文化、外国語教育、政策		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	授業のはじめに提示します。		
受講要件 (履修条件) / Prerequisites, etc.			
アクセシビリティ / Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考 (URL) / Remarks (URL)			
学生へのメッセージ / Message for students	日本国内における外国語教育の実態と課題について一緒に考えましょう!!		

授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
1回目	オリエンテーション グループの決定 多言語社会とは、について考える(1)
2回目	多言語社会とは、について考える(2)
3回目	日本における多言語社会について考える(1)
4回目	日本における多言語社会について考える(2)
5回目	多言語教育とは、について考えるー海外の事例からー
6回目	多言語教育とは、について考える(1)ー国内の事例からー
7回目	多言語教育とは、について考える(2)ー国内の事例からー
8回目	多言語教育とは、について考える(3)ー国内の事例からー
9回目	発表準備
10回目	発表準備
11回目	発表
12回目	発表
13回目	フィードバックとまとめ
14回目	ディベート(1)
15回目	ディベート(2) まとめ

学期 / Semester	2018年度 / Academic Year 4クオ ーター / Fourth Quarter	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 3, 火 / Tue 4
開講期間 / Class period	2018/11/27 ~ 2019/02/05		
必修選択 / Required/Elective class	選択 / elective	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0//2.0
時間割コード / Time schedule code	20180587508701	科目番号 / Subject code	05875087
科目ナンバリングコード / Numbering Code	GEMB 15741_005		
授業科目名 / Subject	多様性社会を考える (異文化理解の実際)COC+ / Understanding of Different Cultures		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	廣江 顕 / Akira Hiroe, 劉 卿美 / Yuu Kiyonmi, 隈上 麻衣 / Kumagami Mai		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	廣江 顕 / Akira Hiroe		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	廣江 顕 / Akira Hiroe, 隈上 麻衣 / Kumagami Mai		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	2, 3, 4	講義形態 / Class Form	講義 / Lecture
教室 / Class room	教養教育G棟38 / RoomG-38		
対象学生 (クラス等) / Target students			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	t-nishi nagasaki-u.ac.jp (西原) ahiroe nagasaki-u.ac.jp (廣江) (メールを送信する を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Instructor office			
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	各教員へメールにて連絡をし、アポイントを取る。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview and relationship to other subjects	異文化理解をするうえで、「衣」「食」といった自分にとって身近な話題から「宗教」や「政治」などの話題まで様々な方向から異文化について考えることができる。その中でも「言語」は、その国・地域の文化や風習と密接な関わりをもっている。この授業では、特に日本語、英語という言語を起点にし、日英の言語文化の共通点、相違点を比較検討しながら異文化について理解を深めることをねらいとしている。		
授業到達目標/Course goals	アクティブラーニングを取り入れた授業方法を取り、以下の4点を到達目標とする。 1) 学生自身が、自主的に学習目標を立ち上げ探究する力をつける。??? 2) 適切な学習計画を実行し、仲間と議論、熟考すること通し多様性を理解する能力を身につける。??? 3) 学習成果を相互的に評価し、相互啓発志向を高めることを目標とする。?? 4) 以上の3点を通して相互の信頼、尊敬及び扶助、表現の自由、他者の意見の受容を獲得する。??? 5) 長崎県内の課題を整理して問題点とその解決案を発表できる。?		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力 (1つ以上3つまで) /Ability other than knowledge and skills acquired mainly through lessons (1 to 3)	主体性 / Autonomy 汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 /Lesson method to stimulate students' thinking	A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動   / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B. 多角的に考えるために他者と関わる活動   / Activities involving others to think from various perspectives C. 技能修得のために実践する活動   / Activities to practice for acquiring skills D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動   / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法   / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F. 教員からの講義のみで構成される   / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Grading	授業態度 (グループディスカッションでの積極的発言等) 40% レポート 60%		
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法) /Class content and format	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学習の内容/Preparation & Review			
キーワード/Key word	異文化理解、語、文化、共生思想、長崎		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	特定の教科書は採用しない。		
受講要件 (履修条件) /Prerequisites, etc.	各人が 1) プレゼンテーションをする 2) ディベートに参加する 3) レポートを書く 4) 授業外学習に週平均2時間程度を充てること、参考資料をきちんと読むこと。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考 (URL) /Remarks(URL)	
学生へのメッセージ/Message for students	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	オリエンテーション 授業の概要の説明
第2回	担当教員：廣江 異文化理解の諸問題1 1)「異文化論」の始まり いつ頃から「異文化」という用語が使われ出したのか。その起源を辿りながら、異文化理解に必要な普遍的視点というべき視座を探る試みを行う。 2)ステレオタイプ論の氾濫?人種・マスメディア? 日常に溢れるステレオタイプ的なものの捉え方の具体例を、グループで可能な限り出し合い、そのイメージがどうやって作られ浸透してきたのかを分析し議論する。
第3回	担当教員：廣江 3)反ステレオタイプ論 異文化理解の諸問題1 Lippmann(1987)等を参考にしながらステレオタイプ論の検証を行い、固定化した観念やイメージをそれが発生した歴史的場面から問い直し、ステレオタイプを相対化する試みを行う。
第4回	担当教員：廣江 異文化理解の諸問題2 1)グローバル化に伴う日本的諸問題 日本人の「国際感覚」、「概念的理理解」、「共感」、「コミュニケーション・バッファー」といった用語をキーワードとして、グローバル化に伴う一般的日本人にありがちな陥穽について議論する。
第5回	担当教員：廣江 異文化理解の諸問題2 2)異文化理解における「共感」の位置付け Rogers(1984)やDamen(1987)を参考にしながら、異文化理解における「共感」を発展的に捉える試みを行う。
第6回	担当教員：廣江 異文化理解2 3)異文化間における文化的配慮とその意義 異文化間における解釈等の違いから生じる摩擦を回避する智恵としてのバッファーを、具体的事例に当たりながら、考察する契機としたい。
第7回	担当教員：廣江 異文化理解の諸問題3 1)身近な異文化：帰国子女・外国人留学生・ALTをめぐる 視点を変えて、日本社会及びその文化が異文化となっている帰国子女・外国人留学生・ALTを取り巻く現状や適応に焦点を当てる。
第8回	担当教員：西原 英語の文化1 日本人英語学習者の発話と英語母語話者の発話を比較して言語表現に見られる文化的特徴を見いだす作業を行う。また、Pragma-linguistic failure、Face Threatening Actの観点から表現パターンを考察する。
第9回	担当教員：西原 英語の文化2 「励まし」「断り」などの言語場面に見られる表現形式の特徴について、資料をもとにグループディスカッションを行い、英語と日本語の差異、特徴について理解する。
第10回	担当教員：西原 英語の文化3 英語と日本語の広告文の特徴について、資料をもとにグループディスカッションを行い、英語と日本語の差異、特徴について理解する。
第11回	担当教員：廣江 異文化理解3 2)あるALTの主張 日本人と言わば「国際結婚」した熊本県在住の元ALTの手記を読み、日本社会で暮らすアメリカ人の本音を考察する。

第12回	担当教員：廣江 異文化理解3 3)Lost in Translation視聴 日本を異文化と捉えるアメリカ人の苦悩を映画化した作品を鑑賞し、日本社会あるいは日本文化の どういった点が異文化になり得るのかを考察し議論する。
第13回	担当教員：廣江 異文化理解を超えて 3)Lost in Translationの視聴
第14回	担当教員：廣江 異文化理解を超えて 4) Lost in Translation視聴 2) Lost in Translation視聴後、グループ・ディスカッションを行い、発表を行う。
第15回	担当教員：廣江 長崎県の異文化事情 まとめ